

## ■ OnAir 3000 ユーザーレポート

喜多方市喜多方プラザ 様

OnAir 3000 with RELINK

施設改善・増設工事に伴い OnAir 3000 を導入



■ PA コンソール（客席での使用例）

喜多方プラザ文化センター  
音響担当 森高 一裕

喜多方プラザは、1983年に開館し、喜多方地域の文化の中心として機能している多目的ホール。大ホールは、響きの良さからクラシックコンサートをはじめ、レコーディングにも使われてきました。そして開館以来27年目となる2010年、施設改善・増設工事として改修工事を実施、音響設備はスチューダーOnAir 3000を中心としたシステムを導入しました。

### 機器選定までの経緯

今回の改修は、工事施工年度から7年前に原案が作成されています。この時は、アナログコンソールをPAミキシング用、デジタルコンソールをマトリクス用に使用し、コンソール2台1セットで構成したシステムでした。また、ミキシング用アナログコンソールは音響室内から客席に可搬できるようにしてあり、客席でも音響室と同様の操作でミキシングができるように考案されていました（この時のアナログコンソールはスチューダー928）。

しかし、原案から実施施工までの年月で大きく情勢が変わりました。大型アナログコンソールがほぼなくなり、デジタルコンソールがほとんどを占めるようになり、ミキシングコンソールにおいてもアナログからデジタルへと変わっていたのです。当然原案のシステムは成り立たず、再度システムを検討することになりました。再検討するにあたりまず考えたテーマは、原案でも考えていた「高音質」「操作性の統一」「可搬性」「メンテナンス性」。「高音質」=PAでもレコーディングでも分け隔てなく高い音質を維持していること。「操作性の統一」=1期大ホール改修工事でPAコンソール・レコーディングコンソールの2台、3期小ホール改修工事でメインコンソール1台（予定）、合計3台のミキシングコンソールを導入し、操作性を統一することで、学習時間の低減と効率的な運用を図ること。「可搬性」=一人での運用がほとんどであるため、一人で持ち運びが可能であること。「メンテナンス性」=今後20年は同一システムを利用すると考えることから、20年後でもメンテナンス可能であると思われること。

この点は、ホールでの運用の基本として考え、今回はこれに加え現在の音響機器を取り巻く環境を考慮し、システム設計を進めることとしました。ここで考えたのは、デジタル化。デジタル化の流れは現在の情勢では当たり前のことと思われました。一方、どこまでデジタルで処理をする？ということは、同期に関する問題をはじめ運用上のトラブルへの対処等様々な検討を必要としました。最終的に、デジタルの良さを最大限に引き出すため、マイクとスピーカー以外はデジタル化する、いわゆる「フルデジタル」によりシステムを構築することとしました。また、デジタルのメリットの一つ「ネットワーク」を音響的に使用できないか？ということも機器選定への検討要素となったのです。

### 選定機種

こうして考えられたテーマをもとに、要となるミキシングコンソールを選定した結果、選ばれたのは「OnAir 3000」。そしてその心臓部はOnAir 3000としては日本初導入となる「S Core Live」が使われることになりました。世界中の放送局で使用さ



■ PA コンソール（舞台袖での使用例）



■ PA コンソール（音響室での使用例）



■ モジュール式として自由な操作レイアウトを実現



■ レコーディングコンソールは純正フレーム仕様

れている同機は、信頼性も高く、音質の良さも認められています。今回は、コアに「S Core Live」を使用することによりディレイコントロールを可能にし、ライブでの「高音質」を目指しました。

PAコンソールは「OnAir 3000モジュール仕様」。4フェーダーモジュール+モニタモジュール+メインスクリーンの構成。サーフェイスは、「可搬性」を考えて1モジュール毎になっており、一人で容易に移動することができます。またコンソール全体を移動する他、音響室に3フェーダーモジュール+メインスクリーンを残し、客席及び舞台袖に1フェーダーモジュール+モニタモジュールを移動してPCオペレーションを利用した分離型使用も可能になっています。

レコーディングコンソールは「OnAir 3000フレーム仕様」を採用し、PAコンソールと「操作性の統一」が図られています。よりマイクに近い位置でのHAのため、ステージでの入力に「D21m」を用いたステージボックスを用意、ステージ周りでの多チャンネル入力にも対応し音質向上を図りました。PAコンソールとレコーディングコンソールの2台のコアは、スチューダーの提唱する

「RELINK」によりMADIで繋がれ、「ネットワーク」を構築しています。耳慣れない言葉に戸惑い、導入前は疑問符ばかりが浮かび軽く考えていた「RELINK」でしたが、これは運用開始と同時に認識を全くかえることとなりました。

#### 運用

「フルデジタル」というテーマで組まれたシステムは、マスタークロックジェネレーターによるクロックで管理され、何の問題もなく運用を開始しました。PAミキシングとしての操作性に関しては、正直不安を持っていました。スナップショットがあるものの最近のライブコンソールと違いワンタッチで切り替えがきくという訳でもなく、即時性が要求されるライブの空間でどう対応できるのか？等と考えていました。しかし、世界中で評価される高音質と操作の自由度の高さは、その不安を払拭するに十分なものでした。さらに、ステージボックスとコンソールの定義をカスタマイズすることにより、ユーザーが望む利用形態に近づけていけるのも、魅力の一つでした。

また、疑問符ばかりだった「RELINK」の有用

性には目を見張りました。1本のマイクをPAとレコーディングそれぞれ別に利用する程度の話ではなく、使用法によってはそれぞれの役割を肩代わりしてしまえるシステムは、未だ可能性が隠されていると感じさせます。

#### これから

「高音質」「操作性の統一」「可搬性」「メンテナンス性」「フルデジタル」「ネットワーク」をテーマにしたシステムは、音質・機能ともにホールを機能させるに十分な性能を有するものとなり、成功を収めました。そして今回、可能性をかいま見せた音響ネットワーク。第1期工事での大ホール内の光回線敷設に続き、小ホールへの回線敷設とホール全体にネットワークを広げていきます。このネットワークに「OnAir 3000」のシステムが重なった時、さらなる発見があるのだろうと今から楽しみにしています。